

高等教育機関と連携した 地域公共交通の推進 (概要版)

平成30年 3月

国土交通省 九州運輸局

「高等教育機関と連携した地域公共交通の推進」事業の背景と目的

- 報告書 P1-1 1章 事業の基本事項
P2-1 2章 学生を主体とした地域公共交通の利用促進に関する事例整理
P3-1 3章 実施主体の募集

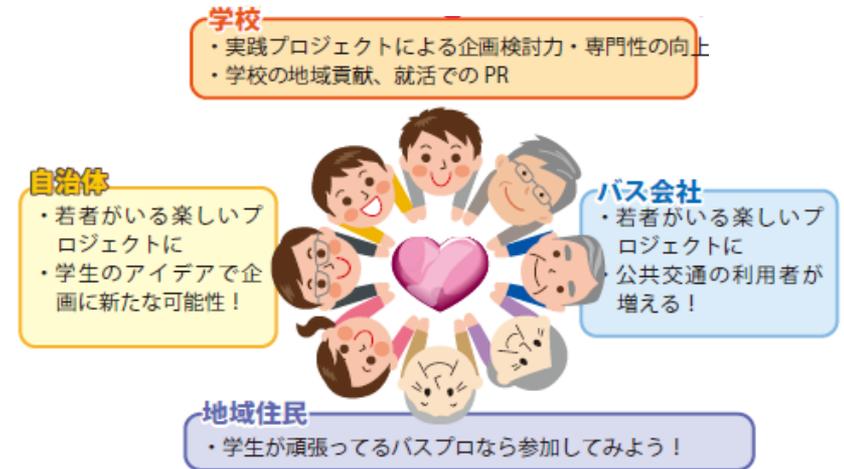
高等教育機関との連携プロジェクト：背景と目的

- 公共交通利用者が減り続けて交通事業者だけでは改善できない状況。自治体における交通施策の専任担当者は減少しているが、補助金による交通事業者の支援・コミュニティバスの運行など自治体の役割は増大。高等教育機関においては地域貢献の社会的な要請
- 今回の調査では、学生を主体とした地域公共交通の利用促進に焦点をあてて、今後他地域へ展開するためのマニュアル案を作成することを目的とする
- 学生がプロジェクトを進める事で、自治体、交通事業者、地域住民、自身にも様々な効果が期待

■自治体、高等教育機関、交通事業者の課題



■高等教育機関と連携した利用促進による期待



高等教育機関と連携して取り組みれば

利用促進事例のタイプ分類

- 利用促進事例をプロジェクトの企画検討・提案と実施段階、学生参加の有無の2軸で分類した。

先生による助言型



■ 地域交通会議における先生の助言

研究アプローチ型



■ 九州大学のまちづくり授業での路線バス改善案検討
・福岡市・九州大学地球環境工学科・路線バス事業者

学生不参加

学生参加

一般プロジェクト型



■ 自治体とバス事業者による運賃上限700円のバストリガー制度
・福井市、路線バス事業者

学生プロジェクト型



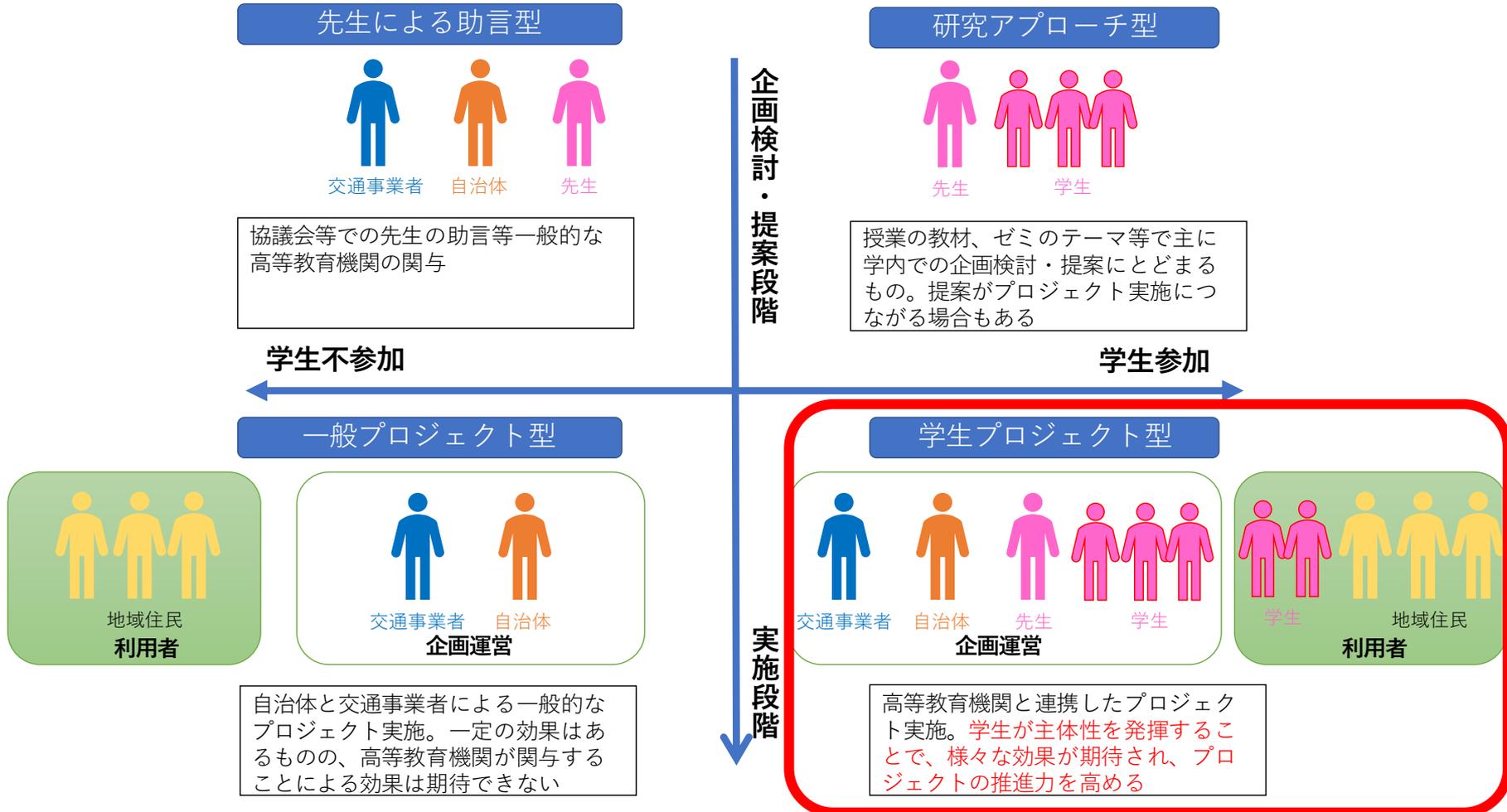
■ バスの試乗体験・おでかけイベント
・豊後大野市・大分大学大井ゼミ
・三重総合高校・コミバス事業者

企画検討・提案段階

実施段階

タイプ分類別の効果と課題

- 学生プロジェクト型は高等教育機関が参加することで、一般プロジェクト型よりもより大きな効果が期待されるが、課題も大きい
- 実現へのプロセス、課題、効果を洗い出すため実施フィールドでプロジェクトを開始する



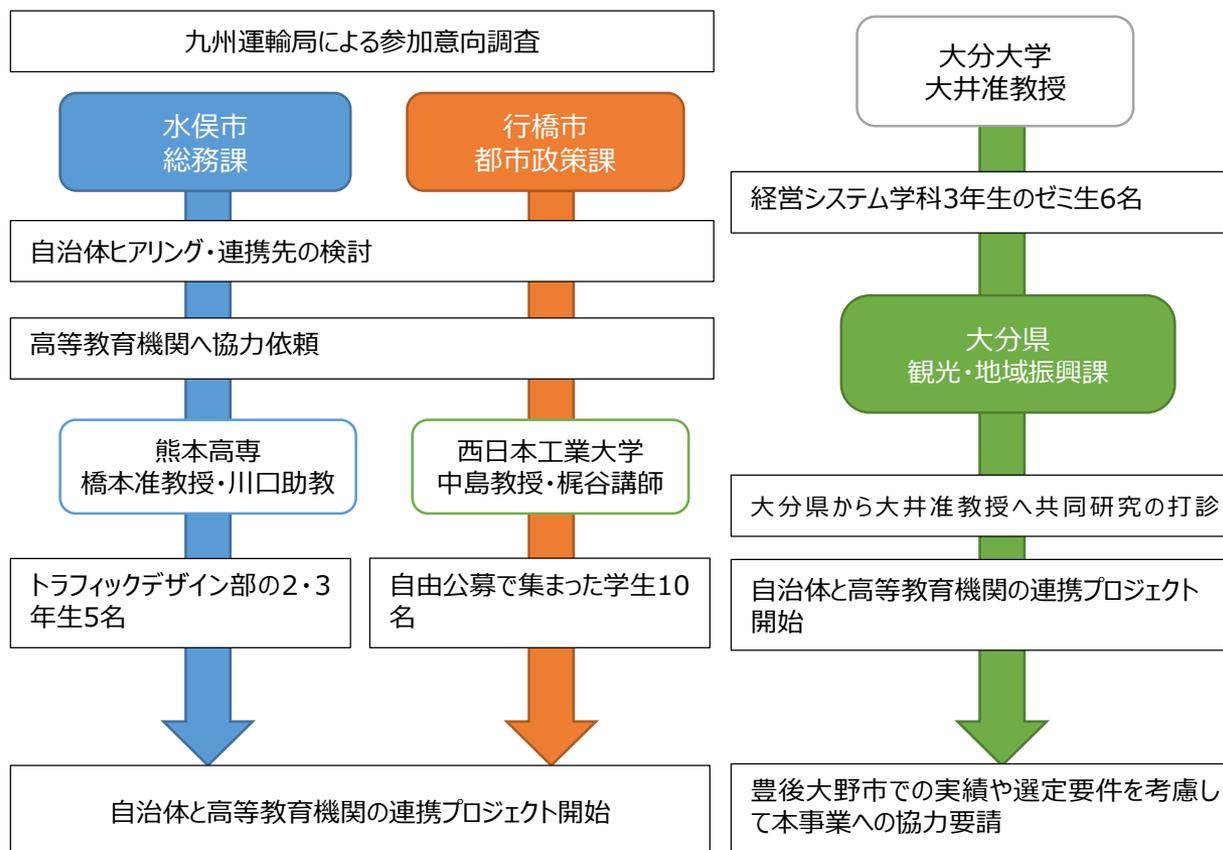
実施フィールドの選定

- 他地域へのプロジェクト展開も見据えて、選定要件（地域バランス、取り組むテーマ、高等教育機関の種類）の異なる実施フィールドを選定

実施フィールド	水俣市	行橋市	国東半島
都道府県	・熊本県	・福岡県	・大分県
自治体	・水俣市総務課	・行橋市都市政策課	・大分県観光・地域振興課
取り組むテーマ	・多モード結節点の改善 ・公共交通を活用した市内観光の提案	・バスラッピングデザイン ・バス内装デザイン ・バス停デザイン	・広域観光における公共交通の活用
高等教育機関	・熊本高等専門学校 八代キャンパス	・西日本工業大学（私立大学）	・大分大学（公立大学）
専門性	・建築デザイン学科	・情報デザイン学科 ・建築学科	・経営システム学科（文系）
先生	・橋本准教授、川口助教	・中島教授、梶谷講師	・大井准教授

自治体、高等教育機関へのアプローチ

- 水俣市、行橋市は当支局による参加意向調査に回答があり、大分大学大井准教授へは豊後大野市での実績や選定要件を考慮して本事業への協力を依頼した。
- 各自治体と高等教育機関のマッチングは以下の手順で行われ、自治体と高等教育機関が連携したプロジェクトが開始された。



水俣のプロジェクト

行橋のプロジェクト

国東のプロジェクト

- 報告書 P4-1 4章 地域及び高等教育機関と取組みの計画に対する支援
P4-6 水俣：多モード結節点の改善と公共交通を活用した市内観光の提案
P4-51 行橋：バスラッピング、バス内装、バス停のデザイン
P4-94 国東：広域観光における公共交通の活用

水俣のプロジェクト概要

【課題】

- 多モード結節点である新幹線駅でのおれんじ鉄道、路線バス、コミュニティバス、レンタサイクルへの案内表示が分かりにくい
- バス会社2社とコミュニティバスの時刻表・路線図がばらばらで分かりにくい

【企画】

- 多モード結節点（新水俣駅）における駅構内サインとバス案内板の作成
- 公共交通を活用した市内観光案内の提案とInstagramによる情報発信

■各モードへの案内



■バス会社2社とコミュニティバスによる統一されていない案内

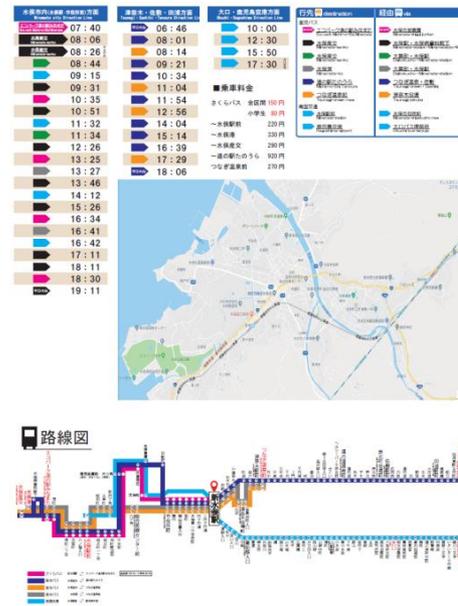


学生の最終成果

■駅構内の総合案内



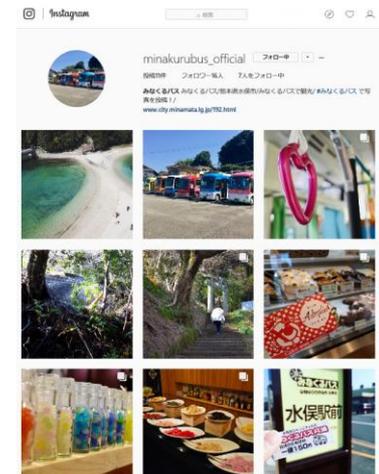
■複数バス会社の統合路線図・時刻表



■モニターツアーの実施



■Instagramでの情報発信

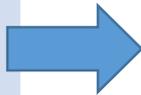




- 平成29年度運輸局直轄調査への水俣市の参画意向表明書を元に、水俣市とコンサルタントで取り組むテーマと連携先について協議

Point 協議による取り組むテーマと連携先の具体化

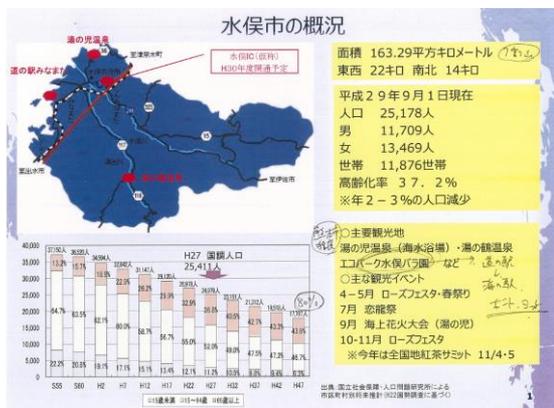
	水俣市の当初企画
実施したい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 学生と共に、保育園・幼稚園・小学生を対象とした公共交通利用促進に係る取り組みを行いたい 専門知識を生かしてもらい、新幹線との接続を行ったバス路線の利用促進の取り組みを行いたい 導入後に、利用が低迷している乗合タクシー路線の利用促進に取り組みたい（廃止も含めた検討を行っており、その際の代替手段の検討も行いたい）
想定される連携先	<ul style="list-style-type: none"> これまで会議への専門家の参加などの実績がないが、この機会に県内大学・高専等とも連携を図っていきたい



	水俣市とコンサルタントの協議後
実施したい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線と接続したバスのダイヤ検討 接続案内の情報提供のあり方（新水俣駅での情報掲示の仕方等） 市内観光のモデルコースづくりとモニターツアー
想定される連携先	<p>A) まず、熊本高専の橋本淳也先生にご相談</p> <p>B) Aが難しい場合、熊大の溝上先生にご相談</p> <p>C) A・Bが難しい場合、九州内の別の先生にご相談</p>

- 学生とのキックオフ会議では、まず水俣市や公共交通の現況、取り組むテーマについてガイダンス
- その後、公共交通や企画アイデアについて自由意見交換
 - 課題：駅前には関係者が多く案内サインが乱立しており、利用者にとって分かりにくい状況
 - 企画アイデア：みんなが集まる場所での情報提供、有名人の看板による案内、インスタグラムの活用、路線図・時刻表・運賃を示す張り紙等

■水俣市の概要



■ガイダンス後の自由意見効果



Point: テーマの共有・学生のやりたい企画に仕立てる

■水俣市のコミュニティバス「みなくるバス」



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 公共交通と課題の理解を深め、企画を検討するために現地調査を実施
- 水俣市からバス会社、JRへの協力要請、事業者訪問や駅構内の見学が可能に
- テーマ1「新水俣駅における企画案」テーマ2「高専、高校生をターゲットにした水俣市内観光、モデルコース」について具体的な企画案や企画アイデアが得られた
- その内容を元に高専生自身で企画書を作成して、次回の打合せ

Point：プロジェクトの周知

■熊本日日新聞への掲載(H29/9/30)



■みなくるバス



テーマ1：新水俣駅における企画案

- 企画案1 場所を決めて案内を出す
- 企画案2 路線情報をまとめた案内
- 企画案3 情報の出し方を考える
- 企画案4 多言語化

Point：学生自身による企画検討

■バスの試乗体験



■レンタサイクル



テーマ2：高専、高校生をターゲットにした水俣市内観光、モデルコース

- アイデア1 おれんじ鉄道の感謝デー（片道運賃1,130円→300円に）活用
- アイデア2 インスタグラムによる情報発信

自治体との協議

連携先との協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 高専生による企画提案と協議を10/19と12/14に実施
- 高専生の提案はユニークでかわいいものが多く、水俣市とコンサルタントは驚き
- 12/14まで2か月間空いてしまったため、情報共有が足りないことによる作業の手戻りが発生
- バス路線図や時刻表の提案もあり、トラフィックデザイン部の学生による専門的な検討成果も

Point: 世の中にな
い新たなアイデア

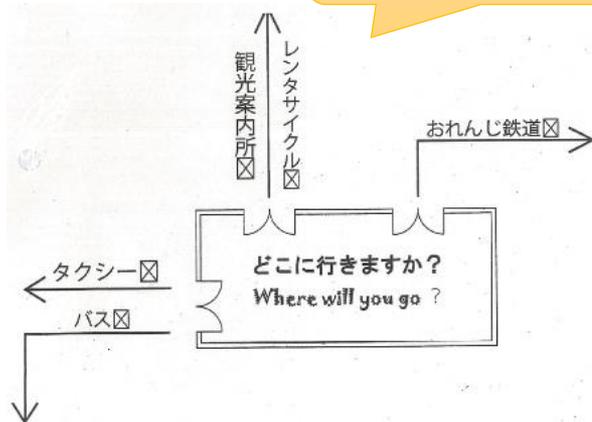
2か月時間が空いたことによる
情報共有の不足が反省点

■ 高専生からの企画説明と協議



高専生自ら企画書を作成
高専生の発想がユニーク、かわいい

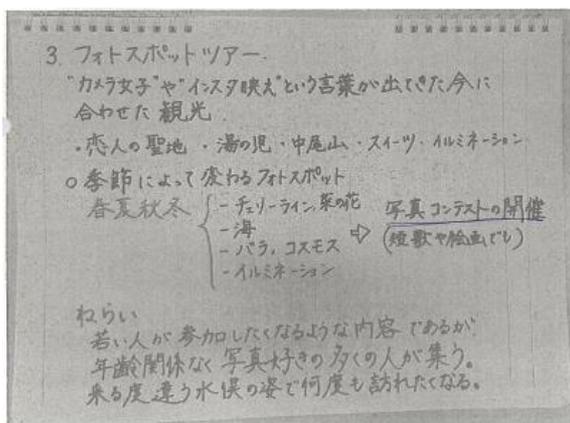
■ 問いかけるサイン



■ バス時刻表

路線名	発車時刻	乗車料	備考
水俣駅前	07:40	100円	
水俣駅前	08:06	100円	
水俣駅前	08:26	100円	
水俣駅前	08:44	100円	
水俣駅前	09:15	100円	
水俣駅前	09:31	100円	
水俣駅前	10:35	100円	
水俣駅前	10:51	100円	
水俣駅前	11:32	100円	
水俣駅前	11:34	100円	
水俣駅前	12:26	100円	
水俣駅前	13:25	100円	
水俣駅前	13:27	100円	
水俣駅前	13:46	100円	
水俣駅前	14:12	100円	
水俣駅前	15:26	100円	
水俣駅前	16:34	100円	
水俣駅前	16:41	100円	
水俣駅前	16:42	100円	
水俣駅前	17:11	100円	
水俣駅前	18:11	100円	
水俣駅前	18:30	100円	
水俣駅前	19:11	100円	

■ 市内観光モデルツアー



■ インスタグラムによる情報発信イメージ



■ 路線図



トラフィックデザイン部の
学生による専門的な検討成果

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 企画がある程度具体化された段階で、実現化に向けて現地での企画テスト
- テスト結果は、最終企画案に盛り込む
- 企画チームが友人を誘うことによる学生の利用促進効果も
- 3/29に水俣市長や交通関係者に企画を発表予定

Point : 学生がインスタグラムを使い情報発信

Point : 友人を誘う事による公共交通の利用促進

■ バス時刻表の試験貼り



■ インスタグラム公式アカウント「minakurubus_official」作成



■ インスタグラム用の写真撮影



■ 駅改札サインの試験貼り



■ おれんじ鉄道感謝デーにモニターツアー実施



■ モニターツアーの実施



現地での実証テスト

行橋のプロジェクト概要

【課題】

- バス停、バス路線が分かりづらい
- 商業施設等に案内板が無い
- 太陽交通（バス会社）としての認知度が低い

【現状】

- 太陽交通が人間的な温かみのある企業

【企画】

- あたりバスによる認知度の向上（バスラッピング）
- 快適すぎる内部空間の創出（バス内装）
- 地域住民とバス停を作るイベントの創出

学生の最終成果

■分かりづらいバス停



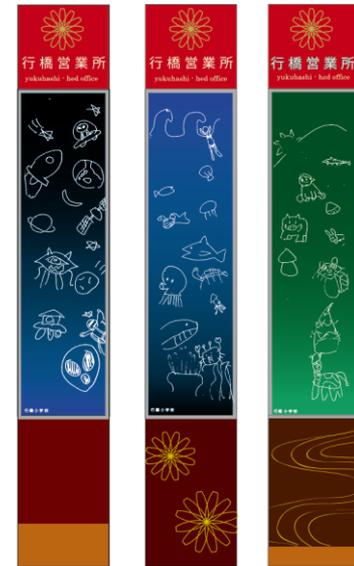
■バスラッピングのデザイン



■バス内装のデザイン



■バス停のデザイン





- 行橋市とコンサルタントで取り組むテーマと連携先について協議
- 協議内容を元にコンサルタントがフライヤーを作成
- 連携先の西日本工業大学へ協力依頼、中島教授の承諾
- 中島教授が学部2、3年生に参加を募集して、10名の学生が参加表明
- 参加理由は「プロジェクトが面白そうだと感じた」「単位が出るから」等

Point: プロジェクト案を可視化

行橋市の当初企画	
実施したい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生と共に、誰にでもわかりやすく、街の活性化、バスの利用促進につながるようなバス停のトータルデザイン及び、ラッピングバスのデザインを考えたい。
公共交通における現状や課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内を運行する路線バスのバス停が小さくわかりにくい。 ● 路線バス事業者がラッピングを希望しているバスが1両ある。 ● 現在、駅前通り（行橋停車場線）の拡幅（県事業H27～33年度）、中心市街地活性化の取り組み（都市再生整備事業 H27～31年度）、公共交通網形成計画事業（H28～32年度）を実施しているため、それに併せた取り組みを行いたい。
想定される連携先	<ul style="list-style-type: none"> ● 西日本工業大学、九州工業大学、北九州市立大学 ● 様々な委員会や会議で有識者として、教授に参画していただいている

■ コンサルタント作成のフライヤー

「高等教育機関と連携した公共交通の推進」事業
行橋市公共交通デザインプロジェクト
 参加者募集!

プロジェクトの目的
 ① 自治体と高等教育機関（大学等）との連携による公共交通の利用促進（事例づくり）
 ② 学生を主体とした取組みによる臨機性の新求
 ③ 地域の盛り込みによる持続的な活動への展開

募集プロジェクト1 『バス停のデザイン』
 ● 募集定員: 10人程度
 ● 締切: 10/20
 ● 対象: 市内の主要な行橋市街地の10箇所のバス停
 ● 対象: 公共の建物（後日、協議の調整）

募集プロジェクト2 『バス車体のラッピングデザイン』
 ● 募集定員: 6名程度
 ● 締切: 10/20
 ● 対象: 市内の主要な行橋市街地の1両のバス
 ● 対象: 公共の建物（後日、協議の調整）

今後のスケジュール（予定）
 10月: プロジェクト概要、メンバー決定
 10～12月: 市内の各バス停、地域との合奏、デザインの製作
 1～2月: 応募検証、意見交換会
 3月: まとめ

今後のスケジュール（予定）
 10月: プロジェクト概要、メンバー決定
 10～12月: 市内の各バス停、地域との合奏、デザインの製作
 1～2月: 応募検証、意見交換会
 3月: まとめ

お問合せ先
 ① 西日本工業大学 担当: デザイン研究所 所長 中島浩二 ☎093-563-2018
 ② 行橋市・都市政策課 担当: 水見 ☎0930-25-1111 (内線 1372)
 ③ 日本工業大学福岡交通都市地域整備 6 担当: 高峯 ☎092-475-7569

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画テスト

STEP 5
提案発表

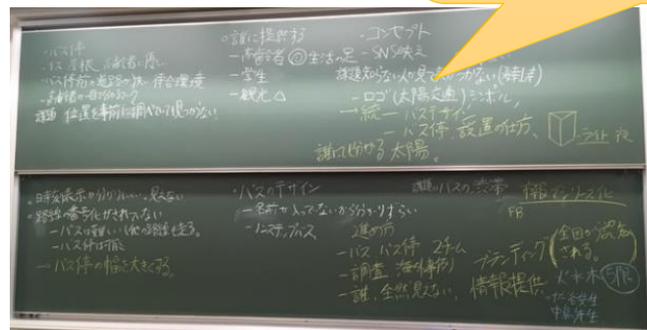
- 学生とのキックオフ会議で、行橋市の概要、公共交通の現状、当初企画、デザイン事例についてガイダンス
- その後、企画内容や公共交通について 学生と自由意見交換

Point：テーマの共有・学生のやりたいことに仕立てる

■ガイダンスの様子



■自由意見交換



■ガイダンス資料

行橋市の概要について

総面積 (H26.10.1) 70.05km ²	人口 (H29.9.30) 73,294人
---	-----------------------------

市の花
「コスモス」
1市8町村の合併を表している。

行橋市の今川に住むあひるをモチーフにしたマスコット

第五次行橋市総合計画
「魅力がいっぱい人が集まるパワフルゆくはし」
シンボルマーク

バス停・バスデザインについて

・バスのデザイン

・バス停のデザイン

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画テスト

STEP 5
提案発表

- 現地調査は、太陽交通の訪問、3チームでの市街地のバス停調査、取りまとめと今後の進め方について協議
- 太陽交通が調査のために貸切バスを手配してくださり、会社概要の説明やリクルートの話もされていた。
- ラッピングを想定している車両が既にシックで良い雰囲気であったため、ラッピングデザインの必要性について疑問が浮上
- バス車内に広告が無いことが分かり、西工大からバス内装デザインの可能性が提案

Point : 課題の整理

Point : 交通事業者の積極的な協力

■市街地のバス停を3チームに分かれて調査



■バス停調査



■太陽交通本社訪問
■調査後の振り返り



■ラッピングの想定車両



既にシックな雰囲気であるため、バスラッピングの必要性に疑問

■バス車内には広告が無い



バス車内には広告がなく、バス内装デザインの提案

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画テスト

STEP 5
提案発表

- 大学側はバスラッピングデザインの企画の必要性に疑問があるが、行橋市は次年度予算として計上予定で実施しなかったため、大人達（自治体・先生・コンサルタント）によるテーマ設定の協議が長引いた。（学生の主体性を疎外した懸念）
- 中島教授、梶谷講師による他のプロジェクト紹介、行橋市による公共交通網計画の紹介などによる企画検討材料の提示
- その後学生自身による企画検討を始め、「住民とのバス停づくりによる思い出づくり」のアイデアが浮上。学生からおもしろいアイデアが生まれて企画案として採用

Point：大人達が話しすぎない

Point：世の中にな
い新たなアイデア

■大人達（先生、自治体、コンサルタント）によるテーマ設定の協議

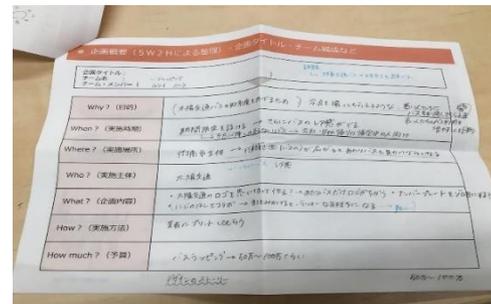


大人達によるテーマ設定が長引いた（学生の主体性を疎外した懸念）

■学生自身による企画検討



■企画検討シート
(タイトル・メンバー・5W2H)



■大人達（先生、自治体、コンサルタント）による企画検討材料の提示



- ・ 「住民とのバス停づくりによる思い出づくり」のアイデアが浮上
- ・ 「成功体験の意識付け」

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

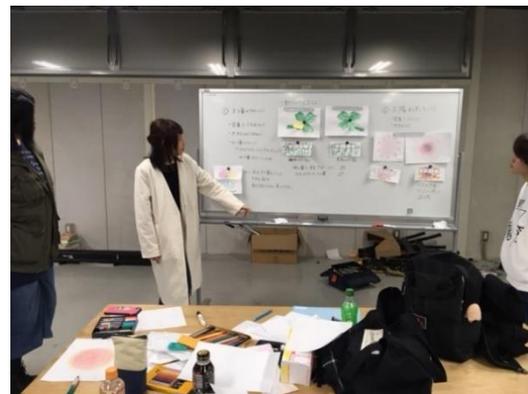
- 検討した提案内容を3チームに分かれて、自由に意見交換しながら具体化
- 作業・発表・講評のサイクルを早く回しながら提案内容のブラッシュアップ（クイック&ダーティー）

Point：チームで自由にディスカッション

■バス停チーム



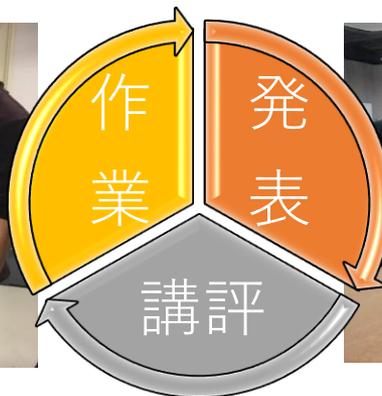
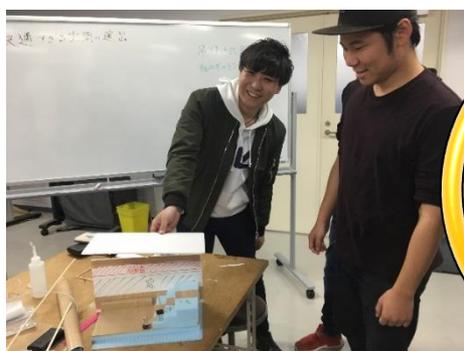
■バスラッピングチーム



■バス内装チーム



■提案のブラッシュアップ



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 中間プレゼンを実施して、バス会社、行橋市からの講評を受けた
- バス事業者から「面白い試みになりそうである」という意見があがり、「ラッピングデザインは太陽案と四つ葉案の2案とも面白い」「木材の使用について、つり革は強度の問題、床面は耐久性の問題等で使用に課題あり」という実現化に向けた課題もあがった

■学生による各チームの提案説明



Point：企画の実現に向けて交通事業者も応援

■バス会社、行橋市による講評



■先生によるプロジェクトの概要説明



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

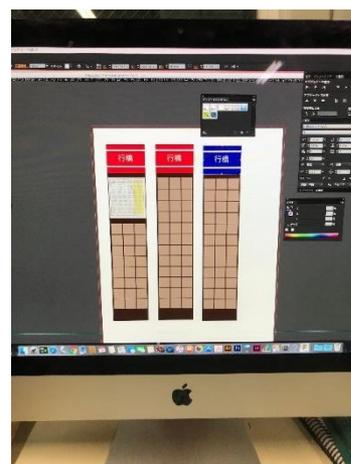
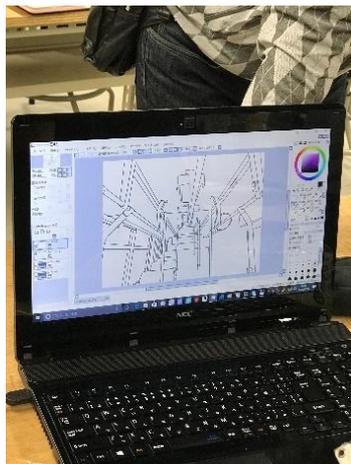
STEP 5
提案発表

- 中間プレゼン後は、パソコン作業によるデザインの具体化
- 授業終了後の春休み期間も、LINEグループで学生から先生へ提案が送られ、提案内容をブラッシュアップしながら3/19の行橋市地域公共交通活性化協議会に向けて最終化

Point：学生自身によるプロジェクト推進

■LINEによる学生と先生の継続的なやりとり

■PC作業によるデザインの具体化



- 最終プレゼン資料の作成作業は、先生と学生で役割分担がなされた
- 梶谷講師によると、学生がプレゼン資料を作成する場合更に5コマ程度の必要になるため、先生が課題、背景なども含めた全体を、学生がチーム毎の提案内容のブラッシュアップを進めた
- 最終プレゼンに合わせて、行橋市は マスメディア・市報の取材を準備 しており、広報によるプロジェクトの周知を進める

■ 最終プレゼン資料

現地調査から考察①

調査結果 温かい企業イメージは、市民に受け入れてもらえるはず。
しかしバス停やバスには**分からない**ことがばかり。

この結果、何が起きている？

唯一のコミュニケーション手段

太陽交通
企業イメージ
人情味ある
温かい会社

行橋市民

行橋市民は太陽交通を好意的に感じてくれるはず

ココが問題

つまり
太陽交通の唯一のコミュニケーション手段である、
バス停とバスがメディアの役割を果たしていない！

正わかりづらいバスの車もどししたる情報に頼ってもらえるだろうか？
地域住民とバス停を作るイベント創出する
手作りでバスのデザイン制作するのであれば、いっそのこと市民と一緒に制作してしまおう！
＝公開性・学生などがバス停をつくるイベントを実施し、バス停に対する思い出作りを行う。

その1：わかりやすさのために

(現状のデザイン)

正面 横側

しかし

改善イメージ

正面 横側

典型的なバスデザインだが・・・ 横から見るとほとんどわからない
情報量が載せられない

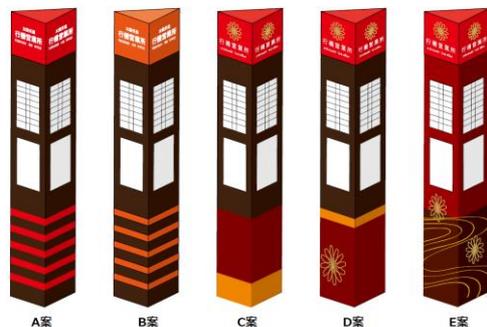
正面からも横からもわかりやすく
情報スペースも多い

Point：プロジェクトの周知



マスコミ・市報の取材

デザイン案： 京浜地域の歴史的な地域資源である「京浜神楽」をイメージした、日本の伝統的な色彩やモチーフを用いたデザイン



国東の課題と企画内容

【課題】

- 大分空港を有する国東半島だが、別府、湯布院へ直行する観光客が多い
- 開山1300年の六郷満山、豊後高田昭和の町、姫島、宇佐神宮等の観光地を有するが、各自治体は連携不足
- 公共交通を使って国東半島を周るのは現実的ではない

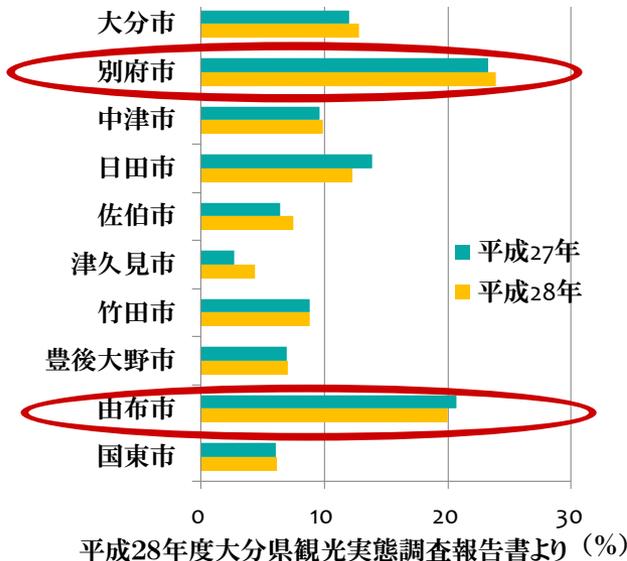
【企画】

- 国東半島の観光地としての認知度向上を目的とした1泊2日モデルツアーの提案「大人の修学旅行」
- 空港ライナーとJRの接続による主要観光地間の周遊性向上
- 公共交通と乗合タクシーの併用

学生の最終成果

■別府、湯布院に集中する大分県の観光実態

立ち寄った市町村



■空港ライナーとJRの接続による主要観光地間の交通網確保



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 国東半島の広域観光振興を目的に、大分県観光・地域振興課より大井ゼミの学部3年生6名にガイダンスがなされ、現地視察を実施
- 大分県は「六郷満山開山1300年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップが発生
- 一方学生は長崎鼻や真玉海岸などの観光スポットに興味

■大分県観光・地域振興課のガイダンス

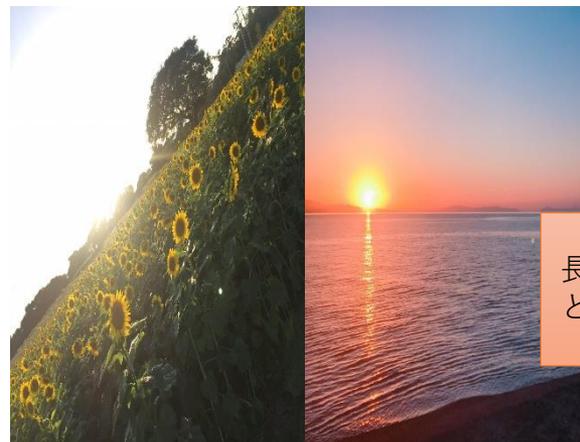


■五辻不動



大分県は「六郷満山開山1300年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップ

■長崎鼻のひまわりと真玉海岸の夕陽



長崎鼻や真玉海岸などに興味

自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 大分県観光・地域振興課と大井ゼミでの六郷満山視察後に、コンサルタントと大井ゼミのキックオフ会議を実施
- 大分県のテーマ設定とのギャップを解消するために、大学生が行きたいスポットを周る現地調査を計画した
- 大学生から車でも回りたいという意見があり、車チームとバスチームに分かれて公共交通の検討を進めることとした。

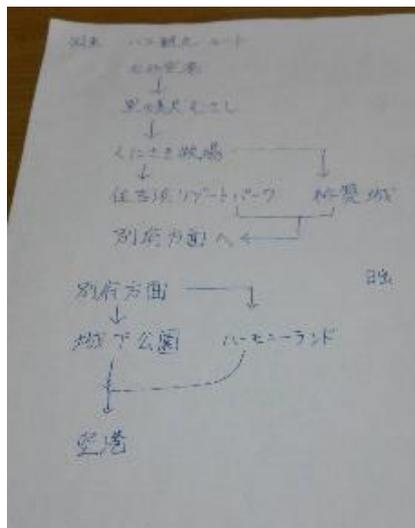
Point: 大人のテーマ設定と学生の企画検討の自由度のバランス

■ 現地視察の振り返り

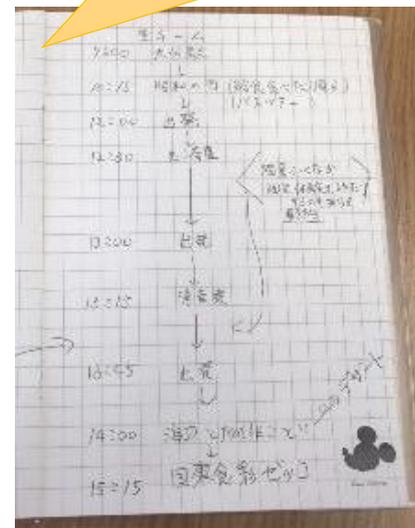


大分県は「六郷満山開山1300年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップが発生

■ 学生が行きたい場所へ再度現地調査 (車チーム・バスチーム)



大学生の行きたい場所を再度現地調査



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

● バスチームと車チームに分かれて現地調査を実施

- 「昭和の町」「姫島」に魅力がある
- 商店街で各自治体の連携不足についてヒアリング
- 路線バス国大線の距離が長すぎて観光利用として現実的ではない事を確認
- 国東半島の観光資源を貸切バスで巡る「修学旅行」のアイデアが浮上。修学旅行であれば「奈良の大仏」のように六郷満山などのお寺もコースに取り入れやすい

Point：世の中
にない新たな
アイデア

■大分空港



■昭和の町の観光



Point：学生
が行きたい楽
しい現地調査

■陶芸工房でのヒアリング



■国大線での観光地周遊



■JR宇佐駅(大分空港⇄中津ライナー4本/日)



■観光協会での情報収集



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

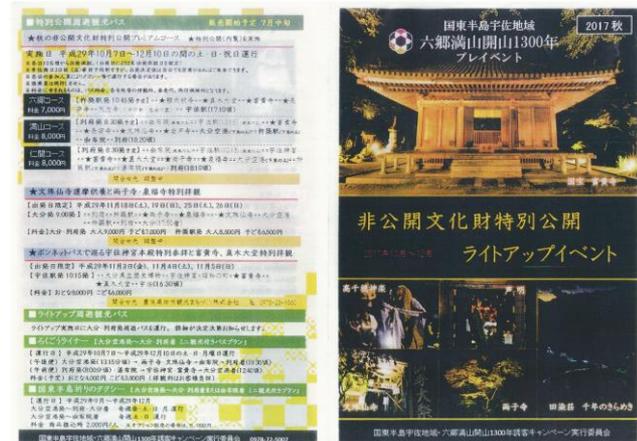
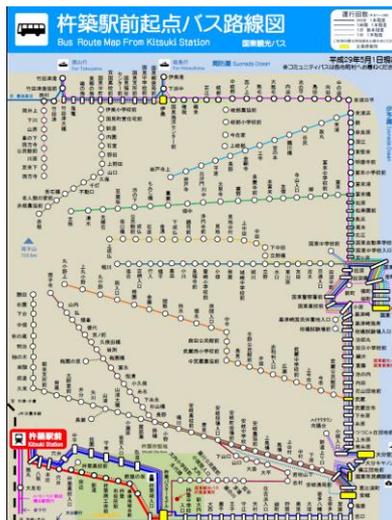
STEP 5
提案発表

- ダイア接続や既存の観光資源について学生自身で検討
 - 路線バスを乗継ぎ国東半島を1日で回るのは現実的でないこと
 - 中津ー空港のエアライナーは国東の主要観光地をまわること
 - 既存の国東半島の観光パンフレットには公共交通の利用方法がほとんど記載されていない

Point: 大人による専門的な検討方法の提示

■ダイアの接続検討（路線バス、JR、空港ライナー）

■公共交通を使う既存観光資源は少ない



■公共交通の接続状況を整理



大分交通

大分空港⇄中津・宇佐
2018年01月25日～2018年02月28日

大分駅	大分県立総合体育館	1000円	中津市立総合体育館	中津駅	大分県立総合体育館
Oita Airport	Imperial	Info	Nakatsu Municipal Sports Center	Nakatsu Sta.	Oita
09:00	11:42	11:48	11:51	11:57	12:30
13:00	14:32	14:38	14:41	14:47	15:00
16:45	18:17	18:23	18:26	18:32	18:45
18:50	20:22	20:28	20:31	20:37	20:50



自治体との協議

連携先との
協議

STEP 1
ガイダンス

STEP 2
現地調査

STEP 3
企画検討

STEP 4
企画具体化

STEP 5
提案発表

- 週1回のゼミを通して、1泊2日モデルツアー大人の修学旅行、広域ライナーを活用した観光スポットの周遊等の企画内容を具体化
- 日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文での発表、学内懸賞論文への投稿、ゼミ内での発表

■国東半島モデルツアー「大人の修学旅行」



■日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文での成果発表

Point：論文発表による周知



■既存の広域ライナーとJRを活用した周遊性の向上提案



九州運輸局長賞受賞

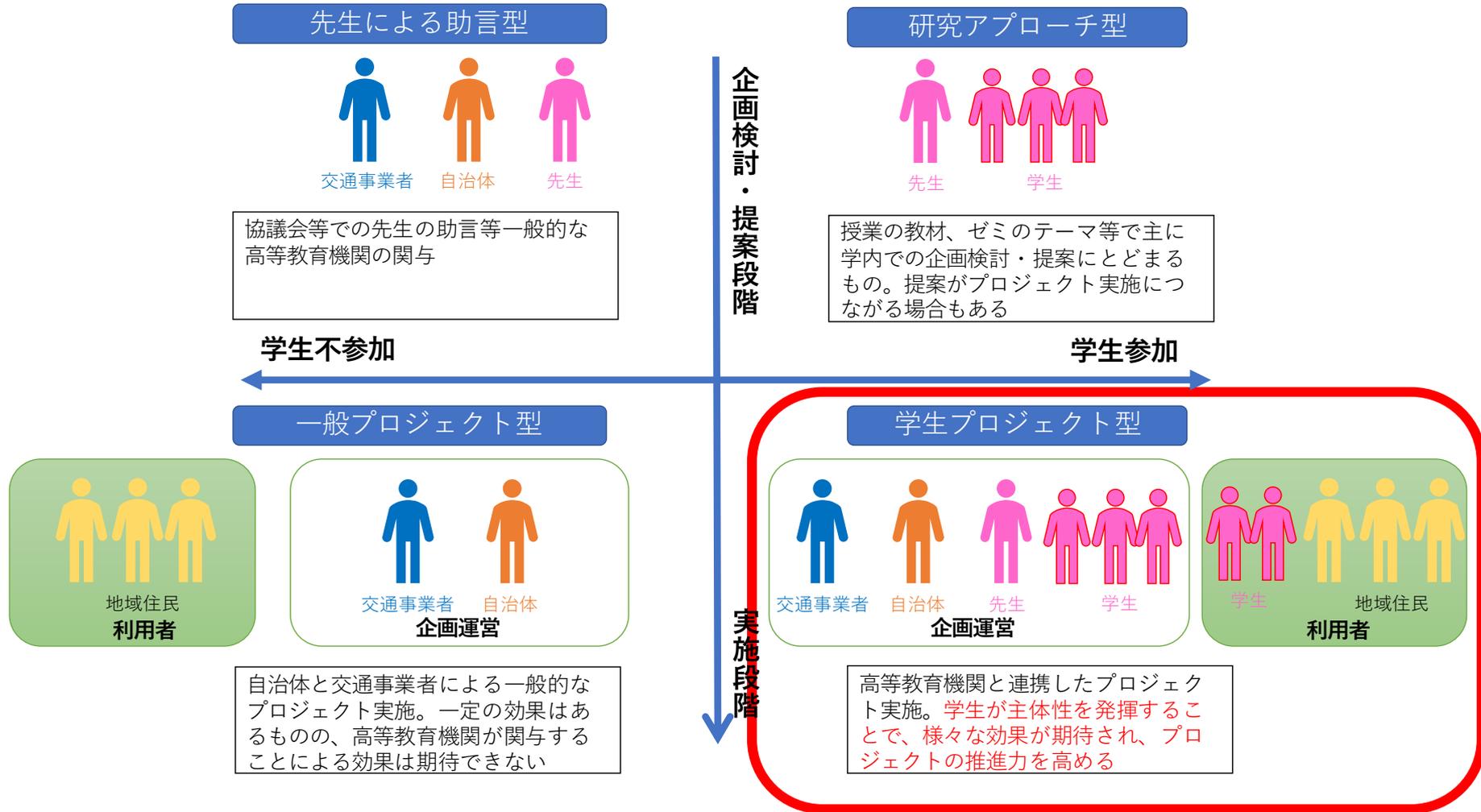
学生プロジェクトの他地域への 展開方策

報告書 P5-1 5章 効果の検証、結果の整理

P6-1 6章 学生プロジェクトのマニュアル

P7-1 7章 連携推進フライヤー「学生が動かすバスプロ!! 求むまちと学校」

プロジェクトの整理：プロセス、課題、効果



行橋、水俣、国東のプロジェクトより実現プロセス、課題、効果の洗い出し

プロジェクトの整理：プロセス、課題、効果

	行橋	水俣	国東
自治体との協議	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト案を可視化 	<ul style="list-style-type: none"> 協議による取り組むテーマや連携先の具体化 	
連携先との協議		<ul style="list-style-type: none"> 先生の温かい見守り 	
ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> テーマの共有 学生のやりたいことに仕立てる 	<ul style="list-style-type: none"> テーマの共有 学生のやりたいことに仕立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 大人のテーマ設定と学生の企画検討の自由度のバランス
現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 「現地調査は良かった」 現地調査による新たなテーマの浮上 市と大学の取り組むテーマに対するギャップ 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの周知 「現地調査は良かった」 	<ul style="list-style-type: none"> 世の中にない新しいアイデア
企画検討	<ul style="list-style-type: none"> 世の中にない新しいアイデア 大人達で長く話しすぎない 	<ul style="list-style-type: none"> 学生自身による企画検討 世の中にない新しいアイデア 2か月期間が空いたことによる情報共有の問題 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的な検討方法の提示
企画具体化	<ul style="list-style-type: none"> チームで自由にディスカッション 企画の実現に向けて交通事業者も後押し 学生自身によるプロジェクト推進 作業・発表・講評のサイクルを速めたこと 「作業時間が短かった」「作業するための知識を勉強する機会がほしかった」 「再度現地調査をしたかった」 	<ul style="list-style-type: none"> 現地での実証テスト 学生がインスタグラムを使い情報発信 友人を誘う事による公共交通の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 「提案をまとめる前に再度現地調査」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>赤：成果 青：課題 黄色：Point ※「J」は学生アンケートの意見</p> </div>
提案発表	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの周知 		<ul style="list-style-type: none"> 論文発表による周知
全体	<ul style="list-style-type: none"> 学生の参加によるプロジェクトの話題性向上 「チームで協力する楽しさ」 「実践プロジェクトによる市や公共交通の理解」 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の参加によるプロジェクトの話題性向上 「実践プロジェクトによる市や公共交通の理解」 「日程調整」「プロジェクトの目的の情報共有」 	<ul style="list-style-type: none"> 「大分県と最後まで協力して取り組めなかったこと」

3地域でのプロジェクトのフロー整理



■テーマ設定

- 公共交通の現状と課題
- 取り組みたいテーマ
- 連携先の候補

■連携依頼・学生募集

プロジェクトの目的
 ◎自治体と産学官連携（大学等）との連携による公共交通の利便性向上（業務づくり）
 ◎学生を主体とした取組みによる経験性の向上
 ◎地域の特色による特約的な活動への展開

プロジェクト01
 10人程度
 10/20
 10月～12月の活動期間
 1～2月：企画案提出、意見交換会
 3月：発表

プロジェクト02
 6名程度
 10/20
 10月～12月の活動期間
 1～2月：企画案提出、意見交換会
 3月：発表

お問い合わせ
 ◎日本工科大学 担当：デザイン研究所 所長 中島隆二 ☎093-563-2018
 ◎経済学系 都市交通講座 担当：長男 田 0930-25-1111 (内線 3372)
 ◎日本工科大学横浜北見京都市地域連携部 担当：高峯 ☎092-475-7569

■STEP1 ガイダンス



■STEP2 現地調査



■STEP3 企画検討



■STEP4 企画具体化



■STEP5 提案発表



学生プロジェクトの効果

楽しい協働体制の確立・大人の積極的な支援

湧き上がる新たなアイデア

プロジェクトの話題性向上

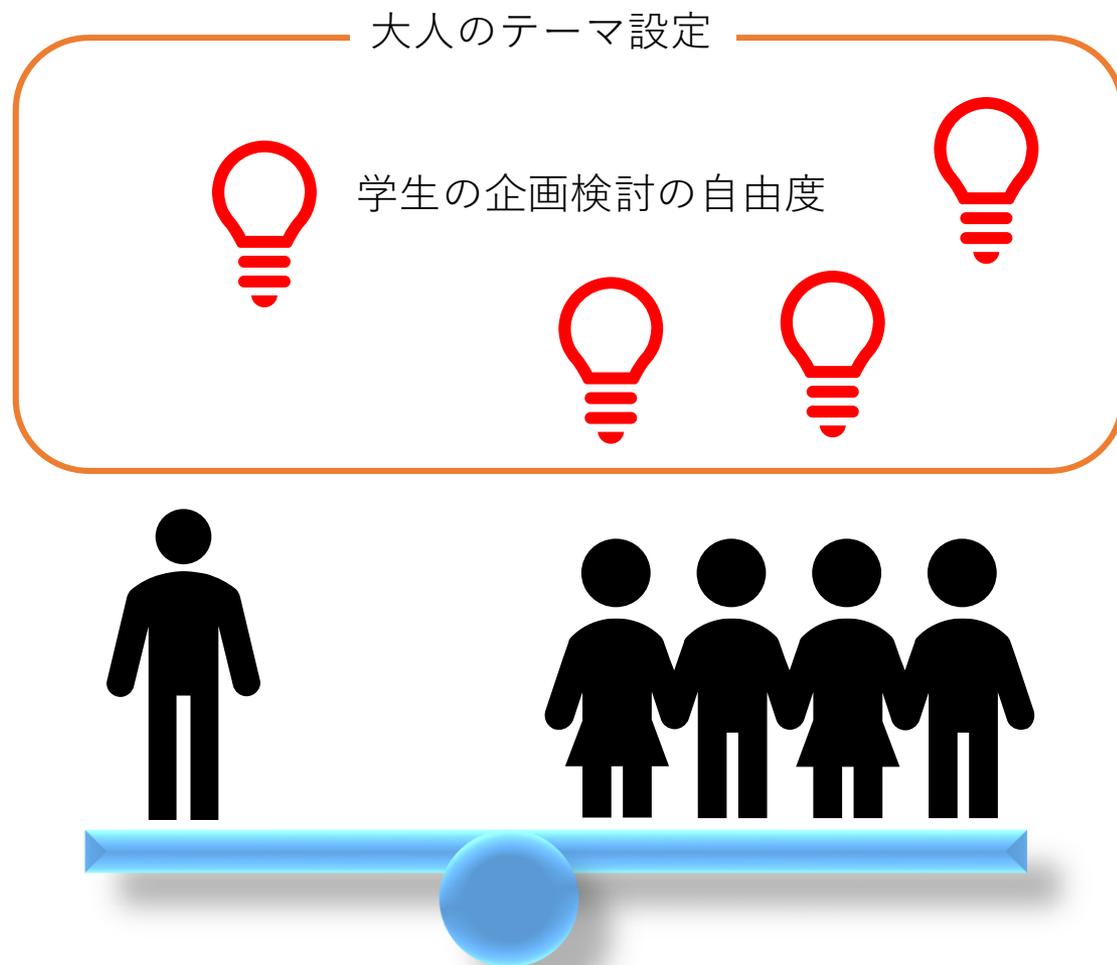
予算取りのしやすさ・プロジェクトの実現性向上

若い世代の利用促進・地域住民の巻き込み

実践プロジェクトによる企画検討力・専門性の向上

学生による企画検討のポイント

- 大人のテーマ設定と学生の企画検討への自由度のバランスが重要
- 学生自身による検討



学生による企画検討のポイント

- 現地調査には様々な効果。可能なら最初と企画具体化段階の2回。



公共交通の利用



課題の理解



新たなアイデアの種



企画の具体化・提案内容ブラッシュアップ



学生による企画検討のポイント

- 大人達の温かい見守り・アドバイスのバランス（学生参加と成果品の質のバランス）



大分交通
Oita Transportation

大分空港～宇津・宇佐
2018年01月10日～2018年02月20日

大分空港	大分上野原駅前	宇津	杵築駅前	宇佐	大分駅前
Oita Airport	Utsunomiya	Utsunomiya	Nakatsu-Mitsurugi	Nakatsu-Bus	Oita
10:10	11:42	11:48	11:51	11:57	12:23
13:00	14:32	14:38	14:41	14:47	15:00
16:45	18:14	18:23	18:26	18:32	18:45
18:10	20:22	20:29	20:31	20:37	20:50

専門知識、検討方法の提示



温かい見守り



大人達から実現化を後押し・
質を改善するコメント

テーマ設定・事前協議段階

■ フロー事のチェックリスト

実施フロー	No.	課題	利用者記入・選択欄
準備・事前協議	1	○課題企画の具体化	
		・何が課題か	(自由記述)
		・取り組みたいテーマは？	(自由記述)
	2	○連携先は？	【身近な高等教育機関】 <input type="checkbox"/> 公共交通会議の学識者 (教育機関名) (教員名) <input type="checkbox"/> 地元的高等教育機関 (教育機関名) 【心当たりのない】 <input type="checkbox"/> 運輸支局に相談 <input type="checkbox"/> コンサルタントに相談
・・・		・・・	・・・

■ 高等教育機関への依頼書案

- ・ 目的
- ・ 規模
- ・ 期間
- ・ 金銭
- ・ 体制

■ コンサルタント等への仕様書案

- 1) プロジェクトの準備
 - (ア) 利用促進の内容の具体化
高等教育機関と連携して取り組み企画の内容を具体化する。その際、高等教育機関に依頼する内容や連携することで得られる効果を考慮すること。
 - (イ) 連携先の高等教育機関の選定
近隣地域の協力を依頼できる高等教育機関を選定して、連携プロジェクトの打診をすること。(事前協議 2回程度)
- 2) 高等教育機関と連携したプロジェクトの実施支援
 - 選定した高等教育機関と連携プロジェクトの検討・実施の支援をする。
 - (ア) ガイダンスの実施
自治体の概要や公共交通の現状と課題、想定している企画内容について説明するためのガイダンスを1回行う。
 - (イ) 現地調査の実施
現地の現状や課題を把握、企画の検討を行うために現地調査を1回行う。
 - (ウ) 企画の推進支援
プロジェクトを進めるための時間(授業、ゼミ)を高等教育機関と調整して、定期的にモニタリング、企画進行補助をすること(3回以上)。
 - (エ) 企画の試行支援
企画の具体化・実施に向けて、デザイン案の模型作成、モデルツアーの実施などを実施して提案内容をより良いものにする。
- 3) 地域公共交通会議などでの発表資料の作成支援
高等教育機関が上記プロジェクトの進捗及び最終成果を地域公共交通会議等で発表するための資料の作成を支援する(1回)。
- 4) 連携プロジェクトの効果検証
上記連携プロジェクトによる利用促進の効果を検証する。(利用者ヒアリング、高等教育機関ヒアリング)
- 5) 報告書作成
前述までの検討内容について、報告書に取りまとめる。

プロジェクト展開のためのフライヤー 求む!!まちと学校

- 今後、他の自治体、事業者、高等教育機関に本取り組みに興味を持ってもらうための利用推進フライヤーを作成した。九州運輸局から当報告書の周知に活用し、高等教育機関と連携した利用促進事業の横展開を行う素材とする

学生が動かす! 求む まちと学校
BUS Project Promotion Progress

自治体 バス会社 学生 先生

Event
 バスの試乗体験おたけイベント

Sign
 新幹線駅でのカワイ乗換案内

Design
 住民との思い出のバス停づくり
 バスラッピングデザイン
 バス内装デザイン

Program
 インスタグラムでの情報発信
 広域観光でのライナー活用
 公共交通を使った市内観光

バスプロでまちが変わる!!

地域と連携した取り組みを始めたい...
 受け身の授業だけではなく地域を変える実践プロジェクトに興味がある!

学校
 ・バス会社への支援やコミバスを運行しているけれど、利用促進は何をしようか...
 ・公共交通の利用者が減ってきている...
 ・何か改善はないだろうか...

補助金による支援・コミバス運行委託
 自治体 ← 公共交通の運行 → バス会社

学校と連携して取り組みを!

学校
 ・実践プロジェクトによる企画検討力・専門性の向上
 ・学校の地域貢献、就活でのPR

自治体
 ・若者がいる楽しいプロジェクトに
 ・学生のアイディアで企画に新たな可能性!

バス会社
 ・若者がいる楽しいプロジェクトに
 ・公共交通の利用者が増える!

地域住民
 ・学生が頑張ってるバスプロなら参加してみよう!

プロジェクトのSTEP

STEP1 チーム結成
STEP2 現地調査
STEP3 企画検討
STEP4 企画具体化
STEP5 提案発表

九州各地で取り組みが始まっています!!

豊後大野市 水俣市 行橋市 国東半島

大人の社会見学: 大学生と高校生企画の試乗体験イベント
 豊後大野市&大分大学、三重総合高校&コミュニケーションバス

多モード結節点における総合案内と公共交通を使った市内観光
 水俣市&熊本高等&甲・路線バス、おれんじ鉄道

バスラッピング、バス内装、バス停のデザイン
 行橋市&西日本工業大学&路線バス

国東地域広域観光における公共交通の活用
 大分県&大分大学&広域ライナー&乗合タクシー

お問い合わせは九州運輸局企画課へ
 ・取り組みの詳細説明、自治体と高等教育機関のマッチング支援、マニュアルの配布等
 TEL: 092-472-2315, Mail: qst-qst-kikakugm.lmlt.go.jp